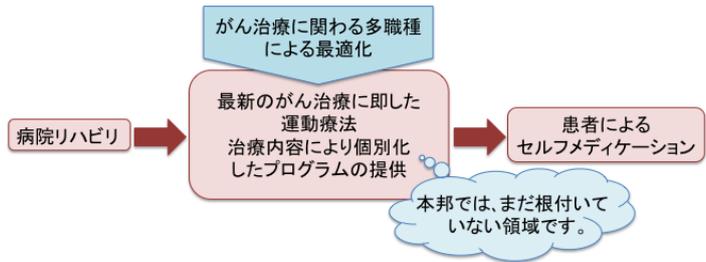


シーズ名	がん治療晩期障害の低減と就労支援 ーがんサバイバーのパフォーマンスの向上を目指してー
所属・役職・氏名	細野 雅子・医学研究科 放射線腫瘍学・准教授

<要旨> 日本ではまだ根付いていないポスト病院リハビリとしての運動療法をがん治療後の患者の状態に即したプログラムを作成し、患者のがん治療後の体力強化と就労支援に繋げていく。疾患ごとの問題点をがん治療の専門医師・看護師により問題提起し、これらを解決すべく多職種連携で研究を進め、がん治療に即した運動療法としての最適化とともに、この事業がもつ社会福祉的、医療経済的観点にも注目し、その提供方法についても患者の社会的、精神的サポートとなるよう効果的なイベントとしてのあり方を模索する。

<研究シーズ説明>

近年のめざましいがん治療の発展により、がん治療は単に治癒を目指すだけでなく、より高い心身のパフォーマンスを目標とした治療へと変わりつつある。しかし、その一方で、長期経過での新たな晩期障害が出現することも明らかになってきた。自身が専門とする放射線治療では、治療計画時に病巣のみならず、正常組織における線量を正確に把握することが可能である。また、高線量照射された局所の変化は時間とともに変化し、血流低下や線維化などが様々な晩期障害の原因となる。胸部の照射後の放射線肺臓炎や腹部の照射後の放射線腸炎などの重篤な晩期障害ではなくとも、高線量照射された軟部組織の変化はリンパ浮腫や筋肉の線維化による運動制限を生じ、肩こりや腰痛の原因となりうる。これらの臨床未満の症状は一旦がんが寛解・治癒となっても転移・再発に対する漠然とした不安を助長し、患者の積極的な社会活動への障壁となってしまうことがある。そこで、本学が属する7大学連携個別化がん医療実践者養成プランの事業としてスタートした「がん患者のための運動によるリフレッシュセミナー」をさらに発展させて大阪市立大学発のジャパンメイドのポスト病院リハビリをワークアウトの専門家と臨床腫瘍学、腫瘍外科学、整形外科学、生活科学部、都市健康・スポーツ研究センター、更に医学部附属病院のがん専門看護師、放射線治療専門看護師、理学療法士などがん診療に関わる多職種連携の研究事業としてスタートすることを計画している。



<アピールポイント>

本邦では独居世帯が増加しており、がんにも罹患しても療養の補助を家族に依頼できないケースが増加している。今後のがん診療には、外科療法・薬物療法・放射線治療の研究開発とともに、社会としての「見守り」体制の整備は急務であり、本事業案は、この「見守り」にも寄与するものとする。また、このような運動療法を通じ、これまで認識されていなかった効果・有害事象の「新たな気づき」のきっかけにもなりうることを考える。

<利用・用途・応用分野>

長期療養を必要とする疾患については、同じような運動療法の最適化とシステム作りが可能と考えます。

<知的財産権・論文・学会発表など>

なし

<関連するURL>

なし

<他分野に求めるニーズ>

本事業を社会福祉事業として定着させ、患者やその家族が心理的障壁なく参加し、その精神的支えとなるようなイベントとして企画・協賛していただける企業。

キーワード	がん治療後の晩期障害の軽減 就労支援 運動療法
-------	-------------------------